節分と立春のお話

ティープロは入試対策期間中ですが、今日は節分ですね。あんDoが小学生のころは学校で豆まきをしたり、給食で大豆が出たりしましたが、今はどうなんでしょうか？ちなみに出身地の宮城県あたりでは、大豆ではなく、から付きの落花生を投げます。

節分(せつぶん)の次の日は立春です。まだまだ気温は冬ですが、暦(こよみ)の上では春になるということですね。節分は文字通り「節(せつ)を分ける」日ですが、「節」とはなんでしょう？調べてみましたが、中国で農耕などの参考にするために一年を24に分けた「二十四節気(せっき)」というものが日本に伝わり、使われ続けているもののようです。

有名なものでは立春、春分、夏至(げし)、秋分、冬至(とうじ)など、ニュースなどで時々耳にするものとして大寒(だいかん)などがあげられます。カレンダーなどで見かけて「なんだこれ？」と思ったことがある人もいるかもしれませんね。

国立国会図書館の暦の解説

日本には梅雨があったり台風が来たりする関係で季節感と合わないところも一部ありますが、中国のものは2016年に世界遺産(いさん)（無形文化遺産）に登録されています。古くからの日中の文化的つながりを考えるには遣隋使(けんずいし)や遣唐使(けんとうし)、それ以前からの渡来人を含め、日本や中国の歴史(れきし)を学ばなければいけません（中学入試でもある程度は出てきます）が、こういうところから興味(きょうみ)をもってみるのも面白いのではないでしょうか。

立春から暦の上では春、ということを上でも書きましたが、みなさんは初春(しょしゅん)の風物詩というと何を思い浮かべますか？あん Do は、花ならスイセンでしょうか。昆虫や小動物はまだちょっと静かにしているようです。魚ではワカサギ、シラウオなどが浮かびます。シラウオは徳川家康の好物だったそうですね。

ワカサギ（左）とシラウオ（右）Wikipedia より

気象では「春一番」という言葉が浮かびます。これは理科で学習しますが、立春から春分までのおよそ一ヶ月半の間に吹く強い南風のことを言います。多くの場合、シベリア気団の弱まりによって低気圧が日本の北側を通りやすくなり、その低気圧が発達したときに南側から吹きこむ空気の流れによって引き起こされます。その後、「三寒四温(さんかんしおん)」と呼ばれる、あたたかい日と寒い日が周期的(しゅうきてき)に訪(おとず)れる春の気候になっていきます。

先週は日本の南側を通り、急速に発達した低気圧（爆弾(ばくだん)低気圧）が大寒波を連れてきました。寒波を連れてくるのも春一番を連れてくるのも低気圧だということですね。面白いですが、あまり寒いのはかんべんして欲しいものです。「暑(あつ)さ寒(さむ)さも彼岸(ひがん)まで」という言葉もありますが、彼岸（春分の前後 1 週間）までなどと言わず、早くあたたかくなって欲しいものですね。

23/2/3　（啓蟄(けいちつ)までこたつにもぐっていたい）あん Do